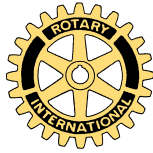


## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2025～2026年度 国際ロータリー フランチャイスク・アレツォ 会長テーマ

UNITE FOR GOOD よいことのために手を取りあおう

創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 近藤 純子  
幹事 加藤 大志朗  
会報委員長 杉浦 守康

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第3301回例会プログラム

[当年度=21回目；当月=1週目]

2026年（令和8年）2月2日(月)

## 1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

12:00 〈食事〉

12:28 1. チャイム

12:30 2. 点鐘……〈会長〉

3. 開会宣言

4. 国歌斉唱

5. ロータリーソング斉唱……奉仕の理想

6. 講師・ゲスト並びにビジター紹介

7. 会長挨拶並びに会長報告

8. お祝い

(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)

9. 幹事報告

10. 出席報告

11. 委員会報告

12. ニコニコボックス報告

13. 次週並びに次々週のプログラムの予告

(2/9) ……

クラブフォーラム（国際奉仕委員会）

卓話 「国際交流協会の活動報告および  
外国人の状況」講師 刈谷市国際交流協会  
常務理事兼事務局長  
齊藤 公人 様

(紹介者 神谷 強 会員)

(2/21) ……

西三河分区インターシティ・ミーティング(IM)

13:30～リリオコンサートホール及び  
ホテルクラウンパレス知立

※2月16日(月)の例会変更です。

13:00 14. 本日のプログラム

卓話 「金継ぎ」

講師 サラーム釉花

主宰 加藤利恵子 様

(紹介者 新美 大輔 会員)

15. 謝辞

16. 点鐘……〈会長〉

17. 閉会宣言

13:30 18. 散会

## 出席

会員総数 94名 出席免除 21名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 82名  
欠席 6名 出席率 93.18%  
前々回（1/19）の修正出席率 100%

## 幹事報告

1) 米山記念奨学会とロータリー日本財団の寄付金の  
領収書をメールボックスに入れさせていただきました。

## 会長あいさつ

近藤 純子



こんにちは。2月に入り、我が家の庭では蠟梅がちょうど見頃を迎えています。寒さの中にも、少しずつ春の気配を感じる季節になりました。

私は例年、年末年始から2月前半にかけて、お取引先様へのご挨拶回りをしておりますが、その中で、あるお客様から「社員に勤めている本です」と1冊の本を紹介して頂きました。

それが、外山滋比古さんの『思考の整理学』という書籍です。1983年に初版が刊行され、その後1986年に文庫化されて以来、長く読み継がれてきた1冊で、読まれた方もいらっしゃるかもしれません。外山滋比古さんは1923年生まれで、旧制八中、現在の刈谷高校のご出身だそうです。私は、同じ頃に出版された『空気の教育』は読んだことがありましたが、『思考の整理学』は今回が初めてでした。

この本では、人はどのように考え、どのようにして独創的な発想を生み出すのかを、「思考の使い方」という視点から語っています。

この本では、人はどのように考え、どのようにして独創的な発想を生み出すのかを、「思考の使い方」という視点から語っています。

印象的なのは、思考には段階があるという考え方です。情報を集め、理解し、整理する段階と、それらをすぐに答えにせず、いったん無意識の中に寝かせ、熟成させる段階。この後者を経て初めて、知識は自分の言葉となり、新しい発想へと変わっていくのだと述べられています。

また、本書の中に、「グライダーではなく、飛行機であれ」という印象的な比喩が出てきます。グライダーは、外からの上昇気流がなければ飛ぶことができません。与えられた情報や刺激に頼って動いている状態です。一方、飛行機は自らエンジンを持ち、自分の力で高度を上げ、方向を決めて飛ぶことができます。

知識や情報に振り回されるのではなく、それらを自分の中で咀嚼し、自分の力で考えを生み出す「飛行機型の思考」の大切さを説いています。そのためには、考え続ける時間だけでなく、あえて考えない「間(ま)」も必要だといいます。散歩をする、少しぼんやりする。そうした時間の中で、思考は静かに熟成していくのだそうです。

この本が、今あらためて意味を持つのは、生成AIが身近になった時代だからこそだと感じました。私たちは問いを投げれば、すぐに答えらしきものを得られるようになりました。しかし、それに頼りすぎると、気流に乗って飛ぶグライダーのように、自分で考える力を失ってしまう危険もあります。

生成AIは非常に便利な道具ですが、エンジンにはなりません。これも今のところなのかもしれませんが…エンジンは、あくまで私たち自身の思考です。『思考の整理学』は、情報があふれる時代だからこそ、「自分の頭で飛ぶとはどういうことか」を問いかけてくれる1冊だと思いました。

便利な風を上手に使いながらも、エンジンは自分の中に持つ。ときには立ち止まり、考えない時間を意識的に作りながら、自分の頭で考え、自分の言葉で判断していく。そんな姿勢を、日々の仕事や生活の中で大切にしていきたいと思います。

本日も、どうぞよろしくお願ひ致します。

## 傘寿のお祝い



橋本 恭典 会員

## お 祝 い

2月の会員の誕生日…盛田豊一、橋本恭典、中林久美、伊藤節夫、池田直樹、加藤大志朗、石川友美、佐野彰彦、岡本知樹会員。

配偶者の誕生日…杉浦光子(芳一)、岡田敦子(行永)様。

結婚記念日…市川裕大、中川耕児、松本邦亮、松島章高会員。

2月度入会記念日…神谷光義、加藤真治、市川裕大、神野公秀、杉浦文雄、豊田貴久会員。

## 卓 話

### 「金継ぎ」

講師 サラーム釉花金継ぎ教室主宰  
加藤利恵子 様



金継ぎとは、器の割れや欠けを漆で継ぎ、金で加飾して再び使えるようにする修理方法です。単に直すだけでなく、器の傷も美しい景色に見立て価値を保つ点に特徴があります。

漆はウルシ科の落葉高木の樹液で、縄文時代から利用されてきました。

先人や職人の知恵に支えられ各用途に幅広く使用されています。文化庁は国宝・重要文化財建造物の修理に国産漆の使用を指示していますが、木一本から採れる漆は年間200cc程度に過ぎず、同時に職人の減少といった課題も抱えています。

金継ぎがいつ生まれたのかは諸説ありますが、詳しい資料は残されていません。室町時代の将軍足利義政所有の青磁碗かすがいという金属で固定する中国の修理方法からという説や、安土桃山時代に織田信長や千利休により普及した茶の湯からという説もあります。公家や武将などの階層で嗜みとして普及した茶の湯において、茶道具を美しく修理することで価値が高まり、金継ぎの技法が発展したことは間違いありません。

近代以降、金継ぎは修理技術にとどまらず美術的価値を楽しむ文化としても注目されます。器の割れや継ぎ目に美を見いだす数寄者(すきもの)が現れ、現代では遊び心を持って金継ぎを楽しむ人を「ピンスキ(貧乏な数寄者)」と称することもあります。最近ではSDG'sの拡がりにより、金継ぎは世界でも知られるようになり企業デザインにも使用されていますが、それらは金継ぎ風デザインであって自然にできたキズ(傷なり)とは違う美しさです。簡単にできる金継ぎは、物を大切にする行為やそれを直す人の想いとは違うものかもしれません。

金継ぎを要望する人は、年代や性別を問いません。「孫にもらった器」「新婚旅行の記念品」を修理すれば記憶がよみがえり、会話も弾みます。器に刻まれた時間や持ち主の思いを大切に、物と心を受け継ぐ営みこそ金継ぎの魅力です。